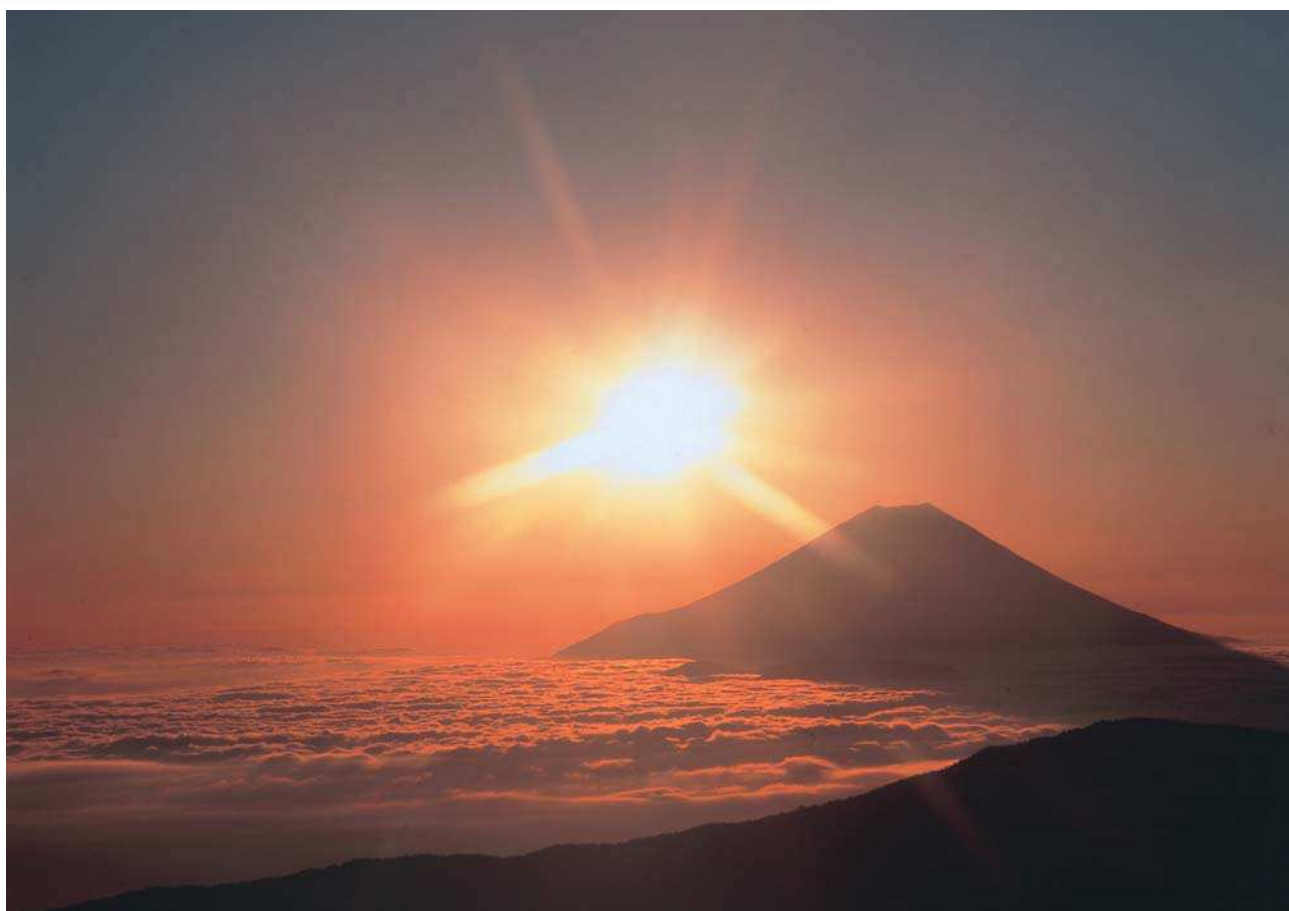


土砂防 だより



旭光に明ける（千枚岳）

年頭の御挨拶	2
2014年しずおかの砂防10大ニュース	
平成27年度 政府予算案閣議決定	3
全国治水砂防促進大会及び支部要望活動	4
北海道の砂防関係事業等視察	5
市町等砂防担当職員研修	6
平成26年土砂災害の発生状況	7
下里地すべりの対応	8
門島地すべり～災害関連緊急地すべり対策事業の完了～	
土砂災害防止法の一部改正	9
「土砂災害防止講習会」の開催	10
わがまち(伊東市・焼津市)	11
インフォメーション	12
お知らせ	16



平成27年度 政府予算案閣議決定



全国治水砂防促進大会
及び支部要望活動

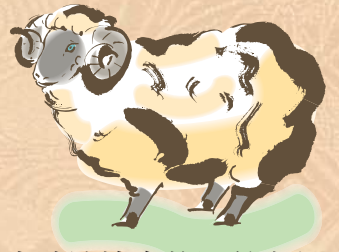
北海道の砂防関係事業等視察
市町等砂防担当職員研修



平成26年 土砂災害の発生状況

全国治水砂防協会静岡県支部

年頭の御挨拶



全国治水砂防協会静岡県支部
支部長 原田 英之

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、日頃から当支部の活動に対しまして、御支援と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年は、全国で約1,120件の土砂災害が発生し、残念ながら80名を超える方々の尊い命が犠牲となっております。特に、広島県広島市北部では、8月の局地的大雨により土石流やがけ崩れが多発し、70名を超える死者を生じる激甚な被害となっております。

本県においては、幸いなことに人的被害は無かったものの、土砂災害の発生件数は例年よりも多い75件でありました。特に、10月の台風18号では、静岡市を中心に64件の土砂災害が発生しています。これらの土砂災害では、県の整備した防災施設により人家等への土砂被害を防止した事例が多くありました。現在、県等により、1箇所において災害関連緊急事業により地すべり対策工を進めるとともに、その他箇所についても交付金事業等により早期の災害復旧・安全対策が進められています。

広島市で発生した土砂災害では、基礎調査や警戒区域等の指定が完了していない地域があり、住民に土砂災害の危険性が十分に伝わっていなかったことや、避難勧告等の発令のあり方や避難場所・避難経路が危険な区域内に存在するなど、避難体制が不十分な場合があったことが課題として指摘されており、これらを踏まえ土砂災害防止法の一部改正が行われました。

土砂災害の防止には、県等による土砂災害防止施設の整備の推進とともに、土砂災害警戒区域の指定を促進し、早期に住民に土砂災害の危険性を認識していただくことが重要です。また、土砂災害に対する適切な避難場所・避難経路を定め、避難勧告等の判断基準として土砂災害警戒情報を明確に位置づけるなど、市町地域防災計画に反映することも必要となります。これら、自治体や住民が的確に避難判断できる仕組みづくりには、国・県・市町が、住民と連携し取り組んでいくことが必要であります。

今年も「土砂災害による死者数0人」を目指し、砂防関係事業の普及・発展に努めてまいりますので、会員の皆様におかれましても、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今年は無事な年であるよう祈念して、年頭の御挨拶とさせていただきます。

2014年しずおかの砂防10大ニュース

平成26年の土砂災害と台風18号

平成26年の土砂災害は75件。このうち10月6日に本県に襲った台風18号では、64件の土砂災害が発生しました。また、土砂災害警戒情報を33市町(35地区)に発表しました。

東海ブロック市町村職員土砂災害対策研修会 及び市町等砂防担当職員研修を開催

1月31日には、東海4県の県・市町村職員約100名の御参加により東海ブロック研修会を、11月21日には本県の県・市町村職員26名の御参加により研修会を実施しました。

静岡県支部第69回通常総会開催!

5月29日に静岡市内において、静岡県支部第69回通常総会を、難波副知事、伊藤県議会副議長、(一社)全国治水砂防協会岡本理事長の御出席のもと開催しました。

「台日砂防共同研究視察団」及び「治山・砂防事業推進議員連盟」が『門島地すべり』を視察

2月25日、台湾から視察団15名が来静され門島地すべりの対策工事状況を視察されました。また、11月12日には県議員連盟が門島地すべり等砂防関係事業の視察をされました。

原田支部長、功労者表彰を受賞!

5月28日、(一社)全国治水砂防協会総会において、功労者表彰が行われました。

原田支部長の静岡県支部における活動の功績が認められ、受賞となりました。





平成27年度 政府予算案閣議決定

1月14日、平成27年度政府予算案が閣議決定されました。国土交通省の行政経費等を含む予算額は、国費ベースで対前年度比1.00の約5兆7,887億円です。予算のポイントの内、砂防関係事業に関するものを示します。

平成27年度 国土交通省関係予算総括表(国費)

(単位: 百万円)

事 項	平成26年度 A	平成27年度 B	対前年度 B/A
治 水	776,600	779,210	1.00
社会資本総合整備	1,996,419	1,996,554	1.00
社会資本整備総合交付金	912,362	901,805	0.99
防災・安全交付金	1,084,057	1,094,749	1.01
その他(道路・港湾等)	3,005,167	3,012,946	1.00
公共事業関係費	5,778,186	5,788,710	1.00

1. 沖縄振興予算の国土交通省関係分を含む。
2. 本表のほか、
 - (1) 東日本大震災からの復興対策に係る経費
(東日本大震災復興特別会計)
 復旧・復興 655,255百万円
 全国防災 41,325百万円
 計 696,580百万円
 - (2) 内閣府計上の地域再生基盤強化交付金
43,068百万円
 がある。
3. 計数は、整理の結果異動することがある。

砂防関係事業における主要項目


1. 気候変動等に備えた災害リスク最小化のための水害・土砂災害対策
2. 南海トラフ地震・首都直下地震対策等の推進
3. 地域における総合的な防災・減災対策等に対する集中的支援(防災・安全交付金)
4. インフラ老朽化対策等のための戦略的な維持管理・更新の推進

砂防関係事業の新規制度

- ▶ 基礎調査のための優先配分枠制度の創設

有東木夢プロジェクト(砂防堰堤群)着工式が開催される

市町等と「土砂災害対策緊急連絡会議」を開催
 広島市で発生した大規模な土砂災害を受け、9月3日に、各市町の警戒避難体制の点検と改善策の抽出及び県と市町の連携強化を目的として、「土砂災害対策緊急連絡会議」を、危機管理部と合同で開催しました。



富士山火山三県合同防災訓練が初めて開催される

JICA研修「土砂災害防止マネージメント」を実施

下里地すべり【治山】(浜松市天竜区龍山町瀬尻)で災害関連緊急事業を採択

長野県南木曾町梨子沢で土石流災害発生
 7月9日、台風8号の接近に伴い活発化した梅雨前線の豪雨により、大規模な土石流災害が発生しました。

広島市で大規模土砂災害発生! これを契機に、土砂災害防止法が改正される!!
 8月20日の局地的豪雨により、広島市北部で甚大な土砂災害が発生しました。これに伴い、土砂災害防止法の一部改正が行われました。

長野・岐阜県御嶽山で火山噴火災害発生
 9月27日、御嶽山が噴火し、観光登山者の死傷、農作物被害など、甚大な火山災害が発生しました。

番
外

※順番、枠の大小、写真の有無などについては、ニュースの大小を表しておりません。

全国治水砂防促進大会 及び支部要望活動

11月18日(火)に、全国治水砂防促進大会が砂防会館で開催されました。

全国から1,045名が参加し、当協会からも12名の御出席をいただきました。大会に先立ち、石井隆一富山県知事から「立山・黒部の世界遺産登録の取り組み」と題して特別講演が行われました。

大会は、綿貫会長の挨拶に始まり、太田昭宏国土交通大臣からの祝辞に続き、国土交通省大野宏之砂防部長から「砂防行政の新たな展開」と題した講演をいただいた後、会員代表として、秋田県仙北市門脇光浩市長と高知県大豊町岩崎憲郎町長から意見発表が行われました。

次に、宮城県蔵王町長である村上英人副会長から大会提言について説明がなされました。

最後に大会提言は満場一致で採択されました。

大会終了後、国土交通省へ、平成27年度予算確保に向けて要望活動を行いました。また、後日、原田支部長により、地元選出国会議員へ要望活動が行われました。

お忙しい中、ご出席いただきました会員の皆様には心より御礼申し上げます。



綿貫会長の挨拶



太田大臣の祝辞



大野砂防部長の講演



促進大会の状況



後藤常任幹事による大野砂防部長への要望



静岡県支部の要望書

参加市町

袋井市、伊豆市、森町、河津町、東伊豆町、菊川市、函南町、川根本町、御前崎市、伊豆の国市、島田市、藤枝市
(12市町/35市町) ※太字は本人参加

市町等砂防担当職員研修

11月21日(金)、県内市町の砂防担当職員および県土木事務所職員を対象とした、砂防事業に関する知識・技術の習得・向上に資するための研修会を、静岡グランドホテル中島屋(静岡市)で開催し、26名の方に御参加いただきました。

静岡県支部常任幹事である後藤森平河川砂防局技監の挨拶の後、砂防課西川茂班長代理より「砂防・急傾斜及び地すべり対策事業について」、砂防課村松武馬課長代理より「土砂災害全般について」、砂防課三谷真史主査より「土砂災害のソフト対策について」、危機政策課板坂孝司主査より「警戒避難体制について」の講習を行いました。さらに、静岡大学大学院農学研究科土屋智教授より「最近の土砂災害について」と題して、御講演いただきました。

参加者からは、「行政として、よりよいマニュアルを策定し、的確なタイミングで避難勧告等を発令できる体制を早期に整える必要があると改めて感じた。」「今後も様々な経験をされている技監、課長、課長代理などが講師となり、これまで経験したことについて伝承していただきたい。」など、多くの貴重な意見や感想が寄せられました。



研修会の様子



土屋智教授の講演

参加市町等

- 《市 町》 静岡市、浜松市、沼津市、伊東市、島田市、富士市、焼津市、掛川市、藤枝市、伊豆市、南伊豆町、清水町、長泉町、吉田町、森町
- 《土木事務所》 下田土木事務所、熱海土木事務所、沼津土木事務所、富士土木事務所、浜松土木事務所



板板主査の講演

参加者の声

■ 焼津市都市基盤部河川課 主査 池谷 太輔 様

当市では、自助・共助・公助一体となった防災力向上を目指す中で、広島の実験後、自分の命は自分で守ることを市民に強く意識してもらうため、地元説明会や広報紙で避難特集を全戸配布するなどの取り組みを実施しました。

市民の防災意識が高まる中、自身の知識向上の必要性を感じ、本研修に参加させていただきました。研修では、土砂法改正の最新情報等を学び、業務に役立つものとなりました。今回の研修を活かし、今後も早めの避難の重要性等を市民に繰り返し伝えていきたいと思っております。

■ 藤枝市都市建設部河川課 技師 青木 仁 様

今回の研修では、近年発生している土砂災害の傾向や砂防・急傾斜地・地すべり対策事業の現状、土砂災害防止法、ソフト対策の重要性、警戒避難体制の考え方、近年の土砂災害の被害状況について学び、自治体と住民が連携しながら避難活動を実施していく事と、ソフト対策の重要性を再認識する機会となりました。

土砂災害の発生状況

土砂災害は、降雨や地震などにより突然発生し、尊い生命や貴重な財産を一瞬にして奪い、地域に深刻な被害をもたらします。

土砂災害は全国各地で毎年発生し、過去10年間で平均約1,000件、県内においても年平均約50件も発生しています。

平成26年は、県内で75件もの土砂災害が発生し、そのうち10月6日の台風18号により64件の災害が発生しました。このうち、23件では既設の擁壁等が土砂や倒木を食い止め、人家への被害を未然に防止し、地域への安全に貢献しました。

平成26年 県内の土砂災害

(H26.12.31現在)

種別	発生日と気象状況											計
	3月5日	3月30日	5月27日	6月7日	7月20日	8月16日	8月23日	9月30日	10月6日	10月14日	12月21日	
	豪雨	豪雨	豪雨	豪雨	—	豪雨	豪雨	—	台風18号	台風19号	豪雨	
土石流等						1			9			10
地すべり								1	1			2
がけ崩れ	1	1	2	1	1		1		54	1	1	63
計	1	1	2	1	1	1	1	1	64	1	1	75



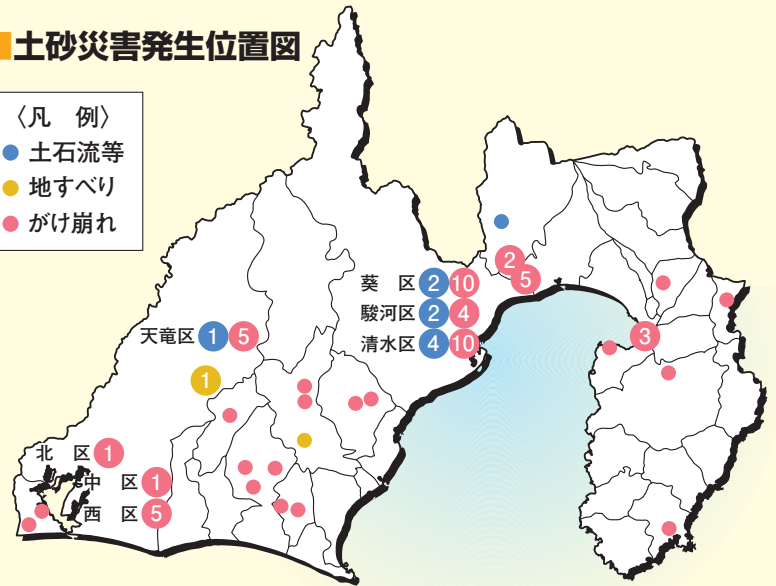
がけ崩れから人家を守った急傾斜施設
(浜松市西区庄和町)



河内沢川流域の山腹崩壊状況
(浜松市天竜区龍山町瀬尻)

土砂災害発生位置図

- 〈凡例〉
- 土石流等
 - 地すべり
 - がけ崩れ



人家裏のがけ崩れの状況
(静岡市清水区小河内)



人家裏のがけ崩れの状況
(静岡市清水区大内)

下里地すべり防止区域(林野庁所管)内で発生した山腹崩壊の対応

1. 山腹崩壊の概要

- ・発生場所 静岡県浜松市天竜区龍山町瀬尻地内
- ・発生日 平成26年9月30日
- ・規模 幅100m、高さ170m、深さ5m
崩壊推定土砂量 50,000m³
- ・被害状況 林地 1.0ha

2. 監視体制

県では、崩壊発生後、新たに伸縮計2基設置し、地すべりの挙動を24時間遠隔監視するとともに、崩壊した斜面の下部を流れる河内沢川に土石流センサー2基設置し、計器による警戒避難体制を市と連携して整備しました。



崩壊発生状況(H26.10.2 撮影)

3. 災害関連緊急地すべり防止事業

山腹崩壊により既存地すべりブロックの活動が活発となり、次期降雨等により被害が拡大する恐れがあるため林野庁に対し事業申請し、12月18日に採択されました。

■事業概要

事業費：約4.2億円 事業内容：集水井工 6基

門島地すべり ～災害関連緊急地すべり対策事業の完了～

平成25年4月23日の大規模崩壊により、地すべり活動の活発化が懸念された門島地すべり（浜松市天竜区春野町杉）は、災害関連緊急地すべり対策事業により崩壊した斜面对策工事を実施し、平成27年1月30日に完成する見込みとなりました。学識経験者及び行政関係者による「門島地すべり対策検討委員会」を設置して、地すべり機構の把握、地すべり対策方針及び対策工法を検討したうえで、事業を進めてきました。

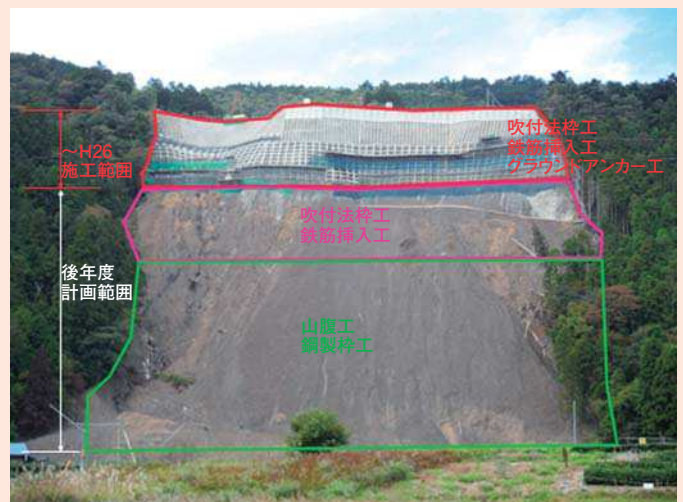
今後は、特定緊急地すべり対策事業などにより、後年度計画範囲の堆積土砂対策工等を実施します。

■事業概要

事業費：約10.3億円

工事内容：

- ・集水ボーリングの増打 N=20本
- ・吹付法砕工 A=7,940m²
- ・鉄筋挿入工 N=1,799本
- ・グラウンドアンカー工 N=588本



斜面正面(H26.12.5 撮影)

土砂災害防止法の一部改正

平成26年8月豪雨により広島市北部で発生した土砂災害では、甚大な被害が発生しました。これを受けて「土砂災害防止法」の一部改正が平成26年11月19日に公布、平成27年1月18日に施行されました。

改正の概要は下記の7点です。

(国土交通省資料より)



1 基礎調査の結果の公表

住民に土砂災害の危険性を認識してもらうとともに、土砂災害警戒区域等の指定を促進させるため、都道府県に対し、基礎調査の結果について公表することを義務付けます。

2 基礎調査が適切に行われていない場合の是正要求

国土交通大臣は、基礎調査が適正に行われていない場合、都道府県に対し是正の要求を行うものとします。

3 土砂災害警戒情報の市町への通知及び一般への周知

市町の避難勧告等の発令に資するため、

- ①土砂災害警戒情報について、新たに法律上に明記するとともに、
 - ②都道府県知事に対し、土砂災害警戒情報について関係市町の長に通知すること、
 - ③都道府県知事に対し、土砂災害警戒情報について一般に周知すること、
- を義務付けます。

4 避難勧告等の円滑な解除

市町が避難勧告等の解除のための助言を求めた場合、国土交通大臣及び都道府県知事が必要な助言を行うことを義務付けます。

5 市町地域防災計画への避難場所、避難経路等の明示

市町の地域防災計画において、土砂災害警戒区域について、避難場所及び避難経路に関する事項、避難訓練の実施に関する事項等を定めることにより、安全な避難場所の確保等、避難体制の充実・強化を図ります。また、土砂災害警戒区域内の社会福祉施設、学校、医療施設等に対する土砂災害警戒情報の伝達等について定めるものとします。

6 国土交通大臣による助言、情報の提供等の援助に係る努力義務

国土交通大臣は、都道府県及び市町による土砂災害防止対策の推進に資するため、必要な助言、情報の提供その他の援助を行うよう努めなければなりません。

7 その他所要の改正

「土砂災害防止講習会」の開催

土砂災害による人的被害を未然に防止するためには、日頃からの危険箇所の監視・点検や、地域住民への防災知識の普及を目的とした広報活動等が重要です。

静岡県では広報活動として、地域住民及び自主防災組織の方々を対象とし、地域の自主防災組織の会合等に職員を派遣する「土砂災害防止講習会」を実施しています。また、小中学生を対象とし、防災教育の一環として、授業時間を活用した「土砂災害出前講座」を実施しています。

平成26年度は、昨年の伊豆大島や本年の広島市をはじめとして大規模な土砂災害が発生したこともあり、県民の方々の土砂災害への関心が高まっているように感じられました。その結果、例年よりも多くの方に講習会に出席していただき、「自分の住んでいる所や周辺にある土砂災害の恐れがあるところを確認する」、「いざという時に早めの避難をするように心掛ける」等の声が寄せられました。

今後も、土砂災害防止に関する知識の普及のために積極的な広報活動を行っていきたく思います。



出前講座の様子



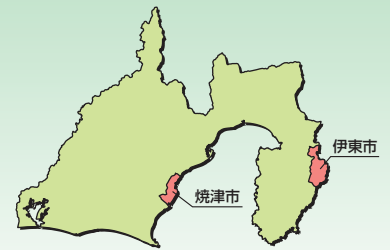
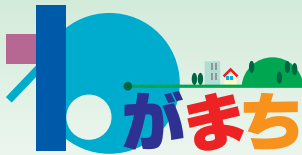
手作りハザードマップの作成



講習会の様子

■ H24～H26（12月31日現在）講習会、出前講座実施回数

	H24	H25	H26
講習会実施回数（受講者数）	20回（1,833名）	22回（2,248名）	35回（2,630名）
出前講座実施回数（受講者数）	8回（344名）	9回（343名）	2回（43名）



伊 東 市

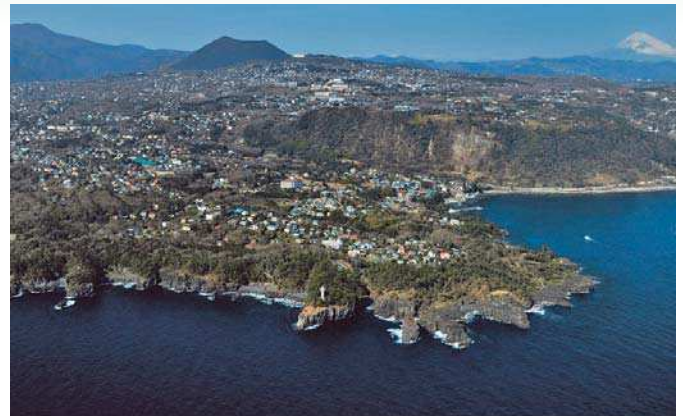
建設課長 高田郁雄

伊豆半島の東海岸の中心に位置する伊東市は、天城山系を背に、相模湾に向かってひらけた明るい温泉地で、海からも山からも自然の恵みを得る事ができます。

城ヶ崎海岸や大室山、一碧湖、小室山などの伊東八景をはじめとする美しい自然や、関東一の湯量を誇る豊富な温泉、相模湾の新鮮な魚介類やみかんなど山海の幸に恵まれており、一年を通じて温暖な気候の伊東には季節の花々が楽しめるスポットも豊富で、四季折々美しく彩られます。豊かな自然に恵まれている一方、急峻な地形が連なり、急傾斜地崩壊危険箇所や土石流危険渓流も多く抱えており、土砂災害に対する危険性は常々危惧している所であります。

こうした中「安全で安心な災害に強いまちづくり」を念頭に置き、災害の防止に市民と共に努めていきたいと考えております。今後とも、県をはじめとした関係各機関のなご一層のご支援をお願い申し上げます。

また、現在、伊東市をはじめとする伊豆半島の15市町で活動を推進している「伊豆半島ジオパーク」は、「南から来た火山の贈りもの」をテーマとし、地球活動によってもたらされた美しい地質遺産を保全するとともに地域振興に活用する取り組みを行っています。2012年に日本ジオパークに認定され、現在は2015年の世界ジオパークへの認定を目指しています。



城ヶ崎海岸と大室山(伊東八景より)



塩木道沢火山砂防(伊東市宇佐美)

焼 津 市

河川課長 大野領司

焼津市は、静岡県の中核部で、東に駿河湾を臨み、西南は一望に広がる大井川流域の志太平洋野で、北部山間部を除く平坦な区域に、約5万4000世帯、約14万3千人の市民が生活しています。

焼津市には、焼津漁港と大井川港の2つの港があり、特に焼津漁港は、水産業の振興上特に重要な漁港として、全国に13港ある「特定第三種漁港」のひとつに指定されており、全国有数の水揚げを誇っています。また、



花沢の里



焼津漁港

市内の花沢地区は今年9月に、国より県内初となる「重要伝統的建造物群保存地区」として指定を受けました。

この花沢地区を含めた高草山山麓を中心とした山間地は、地形も急峻なため土砂災害から市民を守るための砂防事業が進められ、また、危険箇所73箇所の全てが土砂災害警戒区域に指定されておりますが、今後も、市民が安全で安心して生活できるよう、関係各位のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

「有東木夢プロジェクト(砂防堰堤群)」着工式が開催される

8月9日(土)、国土交通省静岡河川事務所が、静岡市葵区有東木地区に計画している砂防堰堤3基のうち杉の木沢砂防堰堤に着手するため、着工式が開催されました。

有東木地区は、ワサビ栽培発祥の地として、ワサビ栽培が盛んであるとともに、お茶の生産も盛んな地域ですが、少子高齢化による地域活力低下等の課題を抱えています。

そこで「有東木夢プロジェクト(砂防堰堤群)」を立ち上げ、砂防堰堤工事で発生した残土を活用し、ワサビやお茶の生産基盤を整備し、観光振興や定住化の促進による地域の活性化を目指す取り組みを、行政と地元協働で行っています。

式典では、国会議員のほか関係者の挨拶や事業報告が行われた後、祝いの舞として市指定無形民俗文化財である「有東木の神楽」が披露されました。



鍬入れ式の様子



「有東木の神楽」の様子

事業評価監視委員会が開催される

9月26日(金)、平成26年度第3回事業評価監視委員会(第1回：7月16日、第2回：8月8日)が県庁で開催されました。砂防関係事業では、事後評価で火山砂防事業の「塩木道沢(伊東市)」が審議され、「改善措置の必要性は特に認められない。」との意見がとりまとめられました。また、再評価では急傾斜地崩壊対策事業の「吉佐美多々戸(下田市)」、「八幡野向町(伊東市)」、「和田(掛川市)」の3件と地すべり対策事業の「上西之谷(掛川市)」が審議され、「いずれも事業を継続するのが相当である」との意見がとりまとめられました。

平成27年度は、事後評価で1件(砂防1件)、再評価で3件(砂防1件、急傾斜2件)が対象となる予定です。

「富士山火山三県合同防災訓練2014」が開催される

10月19日(日)、富士山火山防災対策協議会構成機関、関係市町村及び防災関係機関合同による「富士山火山三県合同防災訓練」が、県庁をはじめ御殿場市畑岡地区等で開催されました。

富士山の火山災害に対する防災力向上と連携を図り、住民等避難の手順を確認するとともに富士山火山広域避難計画を検証することを目的として、県庁での合同図上訓練、関係市町村の住民等避難訓練、関係機関の独自訓練のほか、国土交通省中部地方整備局が御殿場市畑岡地区において噴火時の対応の実動訓練を行い、土砂災害対策では緊急ハード対策等の一部として導流堤築堤作業の実演をしました。



合同図上訓練の様子(静岡県庁)



導流堤築堤作業実演の様子(御殿場市畑岡地区)

東海地区砂防担当者会議が開催される

10月21日(火)・22日(水)、東海地区砂防担当者会議が新城設楽建設事務所 設楽支所(愛知県北設楽郡設楽町)で開催されました。各県の担当者のほか、国土交通省保全課、中部地方整備局地域河川課の担当者が出席されました。担当者会議では、各県が抱える技術的な課題、近年の砂防事業の動向など活発な意見交換が行われました。また、現地研修では、平成23年の台風15号により被災した特定緊急砂防事業を実施中の羽石沢2号(新城市)や宇連川第31支川などの通常砂防事業の6箇所(新城市など)の砂防堰堤工事を見学しました。



黒田川第2支川の現地研修の様子

「ジオフォーラム2014 in 静岡」が開催される(主催 静岡県地質調査業協会 他)

10月24日(金)、「ジオフォーラム2014 in 静岡」が、あざれあ(静岡市)で全国治水砂防協会静岡県支部、静岡県道路協会の協賛により開催されました。今回のフォーラムでは斜面災害・観測と解析の基礎講座が2件とそれに関する技術発表が4件行われました。また、京都大学防災研究所 千木良雅弘教授により「近年の土砂災害の教訓－表層崩壊と深層崩壊－」と題し、降雨や地形、地震等の要因による表層崩壊及び深層崩壊のメカニズム等についての特別講演が行われました。最後に静岡大学大学院農学研究科 土屋智教授より講評がありました。

JICA 研修「土砂災害防止マネジメント」を開催

10月28日(火)～31日(金)、独立行政法人国際協力機構(JICA)の依頼を受け、静岡県内で、開発途上国の11ヶ国15名の砂防関係の技術者に対し研修を行いました。

静岡県内では、県庁、静岡市や静岡県地震防災センターにおいて、土砂災害対策、警戒避難体制の状況、地震への備え等について講義を行い、直轄砂防事業で実施している大谷崩の山腹崩壊対策や富士山麓の砂防事業について現地研修を行いました。

研修員は、説明内容について通訳を介し、熱心に耳を傾けていました。また、大谷崩においては天候にも恵まれ、日本の見事な紅葉も見ることができました。



地震防災センターでの研修の様子



大谷崩の現地研修の様子

平成26年度 東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議が開催される

11月5日(水)、平成26年度東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議が「ロワジュールホテル大垣」(岐阜県大垣市)で開催されました。合同会議には、国土交通省砂防部酒谷砂防施設評価分析官、(一社)全国治水砂防協会岡本理事長を来賓に向かえ、東海地区の各支部長、砂防課長が出席しました。酒谷砂防施設評価分析官より広島市等における砂防部の土砂災害への取り組みについての報告、岡本理事長からは、広島市の土砂災害を踏まえ、避難勧告、避難指示の発令について、各支部長との熱心な意見交換が行われ、大変有意義な会議となりました。



現地視察「東横山地すべり」

2014 火山砂防フォーラムが開催される

11月6日(木)～7日(金)、「2014 火山砂防フォーラム」が山梨県富士吉田市で、火山砂防フォーラム委員会主催により開催されました。今回のフォーラムでは、世界文化遺産となった富士山についての歴史や文化をはじめとし、噴火時の減災対策の話題が中心となりました。富士吉田市立吉田小学校、吉田中学校による「世界文化遺産 富士山とわたしたち」と題した研究発表、「全国からの火山防災対策の取り組み報告」をまとめたポスターセッション・展示、「世界遺産 富士山と火山防災対策」をテーマにした火山砂防有識者によるパネルディスカッションが行われました。



パネルディスカッションの様子

治山・砂防事業推進議員連盟が砂防関係事業を視察

11月12日(水)、水と豊かな生活環境の創造と安心して暮せる社会基盤の整備を目標に、砂防関係事業の推進を目指す「静岡県議会治山・砂防事業推進議員連盟」の視察を浜松市天竜区内で行いました。

今回の視察には会員65名のうち21名の御参加をいただき、要配慮者利用施設等を保全する大谷地区の砂防事業・急傾斜事業、平成25年に地すべりが発生した門島の地すべり対策事業等を視察されました。

議員の皆様が熱心に現場の状況を見ていただき、土石流対策や地すべり対策等に関する質問が多く出されるなど、土砂災害対策の重要性について再認識していただきました。

出席者名簿	
氏名	会派
杉山 盛雄 鳥澤 由克 小野 達也 土屋 源由 仁科喜世志 和田 篤夫 佐地 茂人 加藤與志男 宮城也寸志 渡瀬 典幸 野崎 正蔵 竹内 良訓 中沢 公彦 小楠 和男 鈴木 利幸 渥美 泰一 中谷多加二	自民改革会議 (議員連盟会長) (幹事) (幹事)
小長井由雄 高田 泰久 曳田 卓 野澤 義雄	ふじのくに 県議団
前林孝一良	公明党 静岡県議団

※選挙区順



「門島(地すべり)」工事現場にて



「大谷地区(砂防・急傾斜)」工事現場にて

東海地区土砂災害防止法担当者会議が開催される

11月13日(木)、東海地区土砂災害防止法担当者会議が岐阜市文化センター(岐阜市)で開催されました。会議では、はじめに各県の取り組み状況を紹介し、その後各県から提案された議題について討議しました。討議では区域指定後の課題や警戒避難体制の整備支援に関する課題が議論の中心となりました。活発な意見交換により各県のおかれている状況等を把握することができ、有意義な会議となりました。

東海地区地すべり・急傾斜地担当者会議を開催

11月13日(木)・14日(金)、東海地区地すべり・急傾斜地担当者会議を大仁ホテル(伊豆の国市)で開催しました。各県の担当者のほか、国土交通省保全課、中部地方整備局地域河川課の担当者が出席されました。担当者会議では、地すべり・急傾斜地対策における各県が抱えている疑問等の活発な意見交換が行われました。また、現場研修では、国道136号(伊豆土肥地区)の地すべり災害や、西伊豆町内において平成25年に被災し工事实施中である急傾斜地崩壊対策事業など、発災当時の状況や対策工等について土木事務所から説明を受け、大変有意義な会議となりました。



安良里向田地区急傾斜地崩壊対策事業(賀茂郡西伊豆町安良里)

東海地区直轄砂防事務所長・砂防主管課長会議が開催される

11月19日(水)、東海地区直轄砂防事務所長・砂防主管課長会議が、ホテルグリーンパーク津(三重県津市)で開催されました。

三重県県土整備部井戸坂防災砂防課長の挨拶の後、議事が始まりました。国土交通省砂防部砂防計画課山越課長補佐から、広島や長野県南木曾町の土石流災害、御岳山の噴火などにおける国の対応や留意点など、最新の状況の報告がありました。また、土砂災害防止法改正に伴う基礎調査、指定業務、砂防関連施設の老朽化について、活発な議論が行われました。

静岡県砂防・治山連絡調整会議を開催

12月18日(木)、砂防事業と治山事業が連携して効率的に事業を実施するため、静岡県砂防・治山連絡調整会議を県庁別館2階で開催しました。

会議には、国土交通省中部地方整備局、静岡河川事務所、沼津河川国道事務所、富士砂防事務所、関東森林管理局、静岡森林管理署、伊豆森林管理署、天竜森林管理署、大井川治山センター、県砂防課、県森林保全課の各関係機関の担当者が出席し、来年度以降予定している箇所の事業調整を行いました。



会議の状況

お知らせコーナー

土砂災害防止に関する絵画・作文の応募のお礼

6月1日(日)～9月15日(月)の間、県内の小中学生の皆さんに土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めていただくため、作品を募集したところ、多数の応募をいただきました。誠にありがとうございました。なお、入選発表及び表彰式は平成27年3月を予定しています。



【応募状況】

部 門	小学生	中学生	計
絵 画	10	35	45
作 文	2	8	10
合 計	12	43	55

砂防および地すべり防止講習会のお知らせ

砂防および地すべり対策業務を担当する職員の実務並びに関連知識の習得を通じ、今後の円滑な業務の遂行に資するため、講習会が開催されます。

日 時：平成27年2月19日(木)・20日(金)
 会 場：砂防会館別館 シェーンバッハ・サボー 利根
 参 加 費：5,000円 (テキスト代3,000円、受講費2,000円)
 主 催：一般社団法人 全国治水砂防協会 TEL (03)3261-8386
 問合せ先：全国治水砂防協会静岡県支部 TEL (054)221-3044

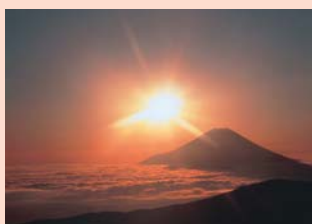


●支部活動予定

- 1月 21日(水) 静岡県砂防ボランティア協会総会および研修会(クーポール会館)
- 5月 26日(火) 静岡県支部役員会および第70回通常総会(静岡グランドホテル中島屋)
- 6月 1日(月)～7日(日) かけ崩れ防災週間(県内各市町)
- 1日(月)～30日(火) 土砂災害防止月間(県内各市町)
- 1日(月)～30日(火) 急傾斜地パトロール(県内各市町)
- 7日(日) 土砂災害に対する全国統一防災訓練(県内各市町)
- 6月中 みんなで防ごう土砂災害(青葉シンボルロード)
- 8月27日(木)～29日(土) 市町長等砂防関係事業県外視察(鹿児島県)
- 10月 下旬 東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議(静岡県内)
- 11月 上旬 市町等砂防担当職員研修(静岡県内)
- 26日(木) 砂防関係事業促進要望(議員会館等)

●協会本部活動予定

- 2月 19日(木)・20日(金) 第55回砂防および地すべり防止講習会(砂防会館)
- 5月 27日(水) 評議員会・参与会(砂防会館)
- 28日(木) 第79回通常総会(砂防会館)
- 10月 8日(木)・9日(金) 砂防現地視察と討論会(立山砂防(富山県))
- 29日(木)～30日(金) 理事・顧問会議(大谷崩(静岡市))
- 11月 25日(水) 参与会(砂防会館)
- 26日(木) 全国治水砂防促進大会(砂防会館)



【表紙写真】

旭光に明ける(千枚岳)

片岡 初枝さん(静岡県富士市)

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記までお問い合わせ下さい。

編集・後記

明けておめでとうございます。昨年(平成26年)は8月豪雨に伴い発生した広島市での土砂災害をはじめ、9月の御嶽山の噴火、10月の台風18号などによる大きな被害が全国各地で発生し、多くの尊い人命が失われました。また、自然の驚異を改めて思い知らされ、土砂災害等にいつどこで見舞われるかわからない状況に土砂災害等防止対策の重要性を再認識いたしました。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。

本年は平穏な一年となりますようお祈り申し上げますとともに、引き続き砂防だよりのご愛読をよろしく願いたします。

砂防だよりは砂防課ホームページでご覧いただけます。 <http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-350/index.html>



第185号 発行日：平成27年1月1日

編集・発行：全国治水砂防協会静岡県支部

〒420-8601 静岡県葵区追手町9番6号 静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課内
 TEL(054)221-3044 FAX(054)221-3564 E-mail: sabo@pref.shizuoka.lg.jp